

令和8年3月24日(火)



# 旭中学校だより

## ＜学校の教育目標＞

- 学び続ける生徒
- 思いやりのある生徒
- やりぬく生徒
- たくましい生徒

## 式 辞

厳しい冬の寒さもやわらぎ、校庭の雪の下では、新しい命が静かに春を待っています。

今日、卒業生の皆さんもまた、それぞれの新しい春への歩みだそうとしています。

本日、余市町教育委員会教育委員「水島希望」様、旭中学校区学校運営協議会委員「北島正樹」様、余市町立大川小学校長「大山敏広」様そして、多数の卒業生の保護者の皆様のご臨席を賜り、本校第七十一回卒業証書授与式を挙行できますことを、心より感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん。ご卒業心からおめでとうございませう。

皆さんは、自分の人生の方向を、初めて自分で選ぶ「高校受験」を経験しました。そして「自分の人生の第一歩」をこれから踏み出そうとしているのです。

皆さんは中学校三年間の学びの中で、少しずつ、自ら考え、そして、周りの意見を参考にしながら、自分の考えを確かなものにする力を、着実に身に付けてまいりました。

私は、今回面接試験の練習をさせてもらいました。その中で感じたことは、三年生の皆さんが真剣に自分の将来について考えているということです。志望動機で将来の夢について語ってくれた人、将来の夢はまだ決まっていなくても、高校三年間の生活の中で次の進路を考えたいなど、自分の口で自分の考えをはっきりと伝える姿勢に、私は、この子達は高校生活でも目標をもって、充実した高校生活を送るだろう、そして自分の夢を実現していく力を身に付けるだろうということを確認いたしました。

また、卒業生の皆さんは、各行事において、クラスで団結し、そして前向きに取り組む姿、目標を達成していく姿を見せてくれました。私が最も印象に残っているのは、十二月に行われた球技大会です。バレーボールとドッジボール、全学級が勝利を目指し、クラス一丸となって競技に参加しておりました。その中でも三年生の、互いに鼓舞し、大きな声で応援し合いながら、最後まで粘り強く戦う姿が、一・二年生の心に伝わり、次第に体育館全体が熱気と一体感に包まれました。卒業生の皆さんの力によって学校が一つになった瞬間でした。

卒業生の皆さんの背中を見て、在校生も大きく成長してきました。四月から新一年生を迎え、また、新たな旭中学校の伝統を創り上げてくれることでしょう。

義務教育九年間は、保護者のみなさんや地域のみなさんに見守られながら、翼を大きく育て、社会という大空に飛び立つ準備をしてきた期間です。それが今終わりを告げ、いよいよ自分の力で羽ばたき、巣立つ時がやって参りました。

自分の将来に希望をもつこと、夢をもつこと、そのことが、自分の人生を豊かにしてくれます。夢や希望があれば、たくさん失敗をしても、必ず立ち直り、前進していけます。そして失敗はしてはいけないことではありません。「失敗」を「学習」という言葉に置き換えてください。そうすれば、「失敗」が多ければ多いほど、たくさん「学習」したことになります。どうぞこれからも学び続けてください。そして「夢は、もち続け追い続ければ必ず叶う」と信じて、自分が選んだ道を進んでいってもらうことを、心から願っております。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、そして義務教育の修了、本当におめでとうございませう。十五年間という年月を振り返ると、お子様との様々な思い出やお子様への想いが去来していることと存じます。まだ幼く、保護者の皆様にまどわりつくように甘えてきた子どもが、いつのまにか自分たちと肩を並べるまでに成長し、そして今、自分の力で新たな世界に踏み出そうとしております。

これも、保護者の皆様が本校教育活動に対して信頼を寄せていただき、ともに手を携えて、お子様の成長を見守ってくださったおかげです。ご協力ありがとうございました。

お子様が、健やかで、さらに優しく思いやりのある人に育ち、周りの人や社会を明るく照らす存在となりますよう、心から祈念しております。

令和八年三月十三日

余市町立旭中学校長  
久米達夫